

辻泰弘 国会ニュース

つじ やす ひろ Kokkai News 2009年1月5日 NO. 76

参議院 厚生労働委員長に就任！

今こそ雇用、福祉に明るい展望を！！

本日、第171通常国会が開会されました。会期は6月3日までの150日間。午前10時からの参議院本会議において、私、辻泰弘が、厚生労働委員会の委員長に選任されました。皆様方のおかげです。



昨年のアメリカの金融危機に伴う急激な景気悪化により、派遣切り、中途解雇、雇い止め、内定取り消しが頻発し、雇用情勢は極めて厳しい状況にあります。

また、年金記録の改ざん、宙に浮いた年金記録、無年金・低年金の放置などによって、国民の年金への不安・不信は募るばかり。さらに、医療難民、介護難民などが叫ばれる程に社会保障政策は後退。障害者支援や生活保護など福祉においても冷たい対応の連続。

国民生活をしっかり支えるべきセーフティーネットが極めて脆弱になってしまった現在、生身の人間の幸せに関わる厚生労働分野の政策の再構築が今こそ求められています。

私、辻泰弘は、今日まで皆様方に賜って参りましたご厚情の数々を胸に刻みながら、雇用・労働、医療、年金、介護、福祉、少子化対策、子育て支援、男女共同参画、食の安全など、生活の基盤を確立し、暮らしの安定を実現するため、職責をかけ全力を尽くす決意です。

なお、私が、これまで主張してきた厚生労働分野に関する基本理念の一端は以下の通り。

◎「政治とは人間の幸せの追求！ 政治の根底には熱い血が流れていなければならない。」

「厚生は生を厚くすると書きますが、その生とは、生活の生、人生の生、生命の生、衛生の生、生身の人間の生である、その生を厚くすることが厚生行政の使命であり、それは政治の使命でもあると確信しています。」（2007年参議院選挙時の公約）

◎「にんべんに動くと書いて働くという字になることが示すように、人間にとっての労働は、その人の人生・生活にとって極めて重要な、死活的な意味を持っている。労働運動も政治もめざすところは人間の幸せにあると思うが、その幸せは人間の日々の営みの中で重いウェイトを占める雇用・労働の状態の幸せ度にかかっており、幸せの実現は、雇用・労働の状態の幸せ度をいかに高め得るかに大きく依存する。」（2008年8月「月刊JTU」）

◎「労働、安全、衛生、環境、生命、医療などの人間の存在の基本にかかわる部分の社会的規制というものは、単純に規制緩和をして人間が幸せになるものではない。」

（2006年12月12日 厚生労働委員会）

◎「近年、高齢者の負担増が連続。年金課税の強化、国保・介護の保険料引き上げ、定率減税の廃止、その上に医療の負担増。短期間に急激な負担を連続して求めすぎ。戦後の廃墟の中から今日の日本をつくった世代が高齢期にある時、非常に冷たい対応だ。」

（2006年5月30日 厚生労働委員会）

今後より一層のご支援をお願い申し上げます。なお、本号は下記のホームページに掲載済。